名医・名院、ここにあり

医療法人社団宏久会
泉岡医院

泉岡利於院長

循環器内科一筋

大人の健康

動脈硬化予防のための診療に尽力

大阪・京橋の泉岡医院・泉岡利於院長は、循環器内科のスペシャリスト。最新の医療を導入するため、他の医療機関との連携を密にし、各種学会へも積極的に参加。より専門的な病院を目指し、大学病院より小児科専門医、基幹病院より消化器専門医、糖尿病専門医も招聘。親子2代に渡り、地域医療を支えている。

セカンドオピニオンとして時間外に相談対応

泉岡院長は、1988年関西医科大学医学部卒業後、同大学内第2内科入局。済生会野江病院循環器内科、関西医科大学心臓血管病センターCCU、門真市蒲生病院内科副部長（循環器内科）などを経て、2000年に父親の後を継ぐため、泉岡医院に勤務。02年には病院を建て替えたが、先代が今年4月他界した。

「最初は継ぐ意思はなく、父も継がなくてもいいといっていましたが、地域のかかりつけ医として奮闘する父の姿に感銘、その精神を受け継ぎたいと思いました。父と私の共通の思いは医療は患者さん中心に考えるべきということ。その思いが開業医の道を選ぶキッカケになりました」（院長）

〒大阪市都島区東野田町5―5―8 JR京橋駅中央北口から徒歩7分。☎06・6922・0890

気さくな院長の人柄に、診察中もリラックスムード

見逃しがちな心筋梗塞の予兆

心筋梗塞の予兆を見つけるデータはない。ただ全体の3～6割の人に予兆が出るといわれている。

「5～10分前後、胸の中心部がまるで誰かに乗られているような感じでグッと痛くなる。ただ、じっとしていると5～10分前後ぐらいで、すっと元に。そのようなことが心筋梗塞の1週間前くらいから多くなる」（院長）

すぐ痛みが治まるので大丈夫だと思って、そのまま放置してしまうと1週間以内にドーンときてしまう。また人によっては胃痛と勘違いしてしまうこともあるという。

「心筋梗塞でも最初、胃が痛いといって来られることが多々あります。でも診るとすぐ胃ではないと分かる。『こんなところが痛くて、心臓ですか』という人もいますが、胃潰瘍などの場合は徐々に痛みが増してくるが、心筋梗塞の痛みは突然、激しい痛みに襲われる。痛み方が全然違う。心筋梗塞の痛みはオフとオンがはっきりして、何時何分までが分かる」（院長）

予兆を見逃さないよう十分注意することが重要なのだ。

現在、1日に70～130人ほどの患者の診療に当たる。地域に根ざした医療を推進するためにも院長は、研究会や学会発表、講演会にも積極的に参加。また、いろんな医療機関との協力体制を確立させてもいった。

院長は〝セカンドオピニオン〟という考え方も大事にしてきた。

「患者さんには大病院と町の医院とをうまく使いわけてほしい。誰のためでもない、患者さん自身のために、いいとこ取りをしたらいいと思います」と院長はアドバイス。

〝セカンドオピニオン〟を実践するため同医院では診療時間外に積極的に相談を受け付けている。

「知り合いに医療関係者がおられればいいですが、そうでない場合、担当医のいっていることが正しいのかどうかが分からない。患者さんが納得でき、最もよい医療を受診できるようにトータルコーディネートするのも町医の仕事だと思います」と、院長は語ってくれた。

突然発症する動脈硬化 ストレスなども引き金に

日本人の死亡原因の第2位に挙げられる心疾患や脳血管疾患。いわゆる循環器系の病気だが、その中でも、圧倒的に多いのが、狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患。心臓の筋肉（心筋）に栄養や酸素を運んでいる血管が動脈硬化を起こし、血流が阻害され、心臓に障害が起きるのだ。

動脈硬化が恐いのは、ある日突然発症することだ。

「よく勘違いされるのですが、だんだん詰まっていってなるのではなく、パッと突然来る。例えば25％の動脈硬化が50％になり、75％、90％、99％となって、完全に血管が詰まり、心筋梗塞が起こると思われていますが、そうではない。25％ほどの軽い状態であっても、素因があるところに疲れやストレスなどの悪条件が重なると、一気に来る。だから恐い」と、泉岡院長は指摘する。

あるデータでは、心筋梗塞を起こす1カ月前に、心臓のカテーテル検査をした患者の半数以上が、動脈硬化率が25％や50％以下にも関わらず、心筋梗塞が起こった例も。

「身体のバランスが悪くなったり、ストレスがかかったり、急激に悪化させる要素があると、25％や50％程度の動脈硬化のところに亀裂が入り、動脈硬化のプラーク（動脈硬化等で現れる血管の病変）が破裂、そこに傷ができることにより血栓が広がり、心筋梗塞になる。だから働き盛りの昨日まで元気だったのにという人が、突然、命を落とすことになる」（院長）

糖尿病治療＆循環器対策で動脈硬化を予防

循環器疾患を発症する原因はさまざまあるが、もっとも悪影響を及ぼしているのが、糖尿病とタバコ。タバコは禁煙するしかないが、問題は糖尿病だ。糖尿病をコントロールできなければ、循環器をコントロールできないとまでいわれているほど関わりは深い。

「糖尿病には微小血管の病気と大血管の病気がある。微小血管の合併症が視力障害や腎臓病など、大血管の合併症が心筋梗塞や脳卒中です」（院長）

厄介なのは大血管の異常の場合、まだ薬を服用しなくてもよい軽い糖尿病の段階から動脈硬化がはじまっているそうだ。

「もちろんインスリンを打つなど重症の糖尿病患者では動脈硬化はかなり進行してしまっている。だから、初期の段階で糖尿病の治療＋循環器疾患の予防・治療を同時に行うことが重要」（院長）

同院では軽度の糖尿病患者に対して、動脈硬化を予防するために、運動療法や栄養士による食事療法も行っている。

「治療に通って来られる病患さんは結構いらっしゃいます。早期の段階から循環器対策をやっている私たちが、厳密に指導していくことが大切。それが町医者の役目」と院長は力説する。

歯科医Dr.イリエの

歯っきり言って歯が命！ ㉗

入江雄一郎／歯科医。大阪大学歯学部卒。部分矯正、成人矯正、インプラントのパイオニア。米国ロマリンダ大学審美教室研修。I・C・D・Iレーザー・ホワイトニングセミナー講師。審美歯科学会員。

費用もリーズナブルな『マグプラント合宿』

5日間で完成！

最近、入れ歯で悩む人たちの問い合わせで増えたのが「マグプラント（インプラント技術を応用、マグネットで固定させる最新式入れ歯）」だ。

安定感にも優れ、見た目が自然の歯と変わらないのが大きな特色。それに、インプラントの本数が少なくて経済的だ。

その評判を聞きつけ、遠方から来られる患者さんが増えたが、そんな人たちが「何回も通うのは大変だから、集中して仕上げてほしい」という声も異口同音にあった。

忙しいビジネスマンもいれば、クリニックがある大阪にしょっちゅう通えない遠方の患者さんもおられる。集中してマグプラント治療に当たることができれば、時間だけでなく、費用も軽減でき、多忙な人や遠方に住む患者さんにも対応可能。そこで考えたのが「マグプラント合宿」だ。大阪のホテルに何日か宿泊してもらい、私と専門のスタッフで、集中して患者さんの治療やケアを行う。

手術時間そのものは30分前後。ほかに、患者さんに合う自然に近い人工歯を作ったり、歯茎のケアをしたりする時間がいる。その間、大阪に滞在してもらうのだ。期間は5日前後。合宿が終われば、見違える歯に！

皆さんもマグプラント合宿に参加しませんか！

続きは次回に。

イリエ歯科IKクリニック
大阪市中央区南船場3―4―26 出光ナガホリビル12F ☎0120・158・118

次回は6月10日（水）掲載

特許を取得したイビキ防止器具『ブレスピース』

高血圧、心筋梗塞、脳卒中の原因にもなるイビキ。健康のためにも、イビキをどうにかしたいと悩む人は多い。そこで今人気なのが、特許取得したイビキ防止器具「ブレスピース」だ。薄さ1㎜、重さ1㌘のマウスピースを上唇の内側から下の前歯の内側へ装着するだけでOK。自然に下アゴが前に出て、気道を広げイビキを防止してくれる。

一般的に鼻の通りをよくすればイビキが止まると思われているが、それは間違い。イビキの約90％は喉の気道が狭くなって起こる。気道を広げてすっきり快眠。歯ぎしりにも効果的だ。2980円。東急ハンズやドラッグストアでも販売中。

問 エコノアート ☎072・857・0217